中央聖書神学校
Central Bible College
CBC後援会だより vol.20

誰かが担ってくれている

中央聖書神学校通信科主任　佐藤　誠
（武蔵野基督教会牧師）

私が神学校に入学したのは、47歳と人生も半ばをとっくに過ぎた春でした。軽井沢のCAキャンプで献身に導かれ、全国聖会でも献身の招きに応え前に出て行きました。しかし、そのような献身への思いは日常の忙しさにかき消され、仕事はもちろん、教会の責任ある働き、家族との時間などを手放して神学校に入学し寮に入る事は現実的ではありませんでした。「すべてを捨てて従いまつらん」（聖歌582番）との賛美が頭を巡り、自分はいつになったらすべてを捨て神学校に入る事ができるのかという焦りを覚える時もありました。

そのような中、何人かの牧師先生からの助言によって、中央聖書神学校の通信科が2008年度から始まる事を知りました。「捨てることを今は考えずに神学校で学べる。」ようやく、献身への一歩を踏み出すことができました。

『イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」彼らはすぐに網を捨ててイエスに従った。イエスはそこから進んで行き、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと一緒に舟の中で網を繕っているのを見ると、二人をお呼びになった。彼らはすぐに舟と父親を残してイエスに従った。』（マタイの福音書4章19節～22節）

一人の人が主の召しに応えてすべてを捨てて従うという事は、捨てたものが必要なくなったのではなく、それを誰かが担ってくれたという事です。イエスの弟子たちも、仕事の責任や家族を担ってくれる人がいたから、捨てて従う事ができたのです。

通信科で学び始めて半年後、他教会へ日曜派遣に行く時には、私が担当していた教会の働きを兄弟姉妹がそれぞれ担ってくださいました。一年後、スクーリングのために一週間の休みをとろうとしましたが、社会情勢が厳しく変化し長期の休みをとれるような甘い状況にありませんでした。仕方なく、辞表を出した上でスクーリングに臨むことにしました。部内にはだいぶ迷惑をかけてしまいましたが、後を担う人が来てくれました。入学時はどれも捨てることができませんでしたが、時にかなって担い手が与えられ、捨てるべきものを捨てることができました。

中央聖書神学校後援会の働きは、捨てるための勇気と信仰が最も必要となる経済の一端を担う事にあります。通信科の学生たちは、日常生活の中に毎月50時間以上の学習時間を確保するために、仕事の仕方を変えざるを得ません。捨てなければ時間は生み出せません。どうか捨てた分を担って頂き、学生たちの学びの日々を応援して頂ければ幸いです。

神学校構内環境整備活動報告

中央聖書教会　福田 智香子

6 月 22 日土曜日、16 教会の信徒、本科と通信科の神学生、教職、神学校職員、カイアルファアメリカチームの総勢 66 名で構内整備活動を行いました。今年は例年の作業に加え、教室やチャペルの窓拭き、寮のエアコンフィルター、食堂の窓、網戸の水洗い、今まで手つかずの本部棟前の斜面の植栽剪定、神学校事務室裏の側溝のゴミのかき出しも行うことができました。国や教会を超えて、老若男女が共に汗を流し、主の駒込山の大掃除をすることは特別な祝福があります。兄弟姉妹と綺麗に整備された構内を眺めると、大きな達成感と奉仕の恵みを分かち合えた喜びで満たされました。来年は校舎改築工事のため、例年とは違う形での活動となりますが、奉仕と良い交わりを企画検討いたします。どうぞ、この働きを覚えて祈りつつご参加ください。

一族の救い（下）

結城キリスト教会　柏　勝

群馬県の寒村に信仰の種が蒔かれ、有馬俊平の子・孫たちも多くが信者となった。俊平の孫娘（三代目クリスチャン）御室は年若く東京で生活し、木村荘十三に嫁いだ。荘十三の兄姉は作家、画家、映画監督、新派役者など芸術畑の血筋であったが、自身は実直なエンジニア、この兄弟にしてむしろ稀な存在であった。御室はまずは教会を探し求め幼い子たちを伴い礼拝を守った。

やがて荘十三の勤務する東京下町の工場が戦災で失われ、戦後間もなく、結城市の会社に技師としての職を得て一家は移り住んだ。御室はここでも教会探しを始めた。

一方、隣町の関城教会で牧会していた長島ツル師は結城での伝道を開始しようと、家庭集会のため開放してくれる家を探していた。

この求めに中根家（白石享子師実家）が応じてくださり、結城での家庭集会が一九四六年九月に開始された。この集会案内は電柱に張り出された。ハレルヤ！この張り紙が御室の目に留まり、最初の家庭集会に子供たちを伴い出席することとなった。

この家庭集会は大いに祝福された。御霊に満たされ多くの人が詰掛け、遂には廊下まで人が溢れ、より大きな場所が必要となった。翌一九四七年、教会堂の購入を決し、熱心な祈りと献金、更に思わぬ方法で予定額が満たされ、十二月に弓山喜代馬・菊地隆之助両師による献堂式が行われ結城基督教会が設立した。家庭集会から僅か一年余のことである。このこと及び最初の信徒誕生から二年での名久多教会の設立を思うと、主の御計画は時としていとも速やかに成されることを感じる。

一九四八年、荘十三・御室の三歳になる末娘が日本脳炎を患い、医師も見放す重篤な状態となった。教会では信仰を以て熱心な祈りが捧げられ、いよいよ最期を通告されたその日、長島師が病室に赴き祈ると、主は素晴しい御業をなされた。幼女は癒され回復していった。荘十三は妻の信仰を横目にキリスト教に全く無関心であったが、この奇跡を目の当たりにして主の御前にひれ伏さざるを得なかった。それ以降、荘十三は「全く主に捉えられ、風が吹こうが雪が降ろうが集会に出ないではいられない人になり」（御室談）結城教会の長老として生涯を主に仕えた。一族の為祈り続ける群馬の有馬家では、荘十三の「大変化に驚くと共に遠大な御心に感謝した」。

有馬家の家系からはその後、御室の甥、姪が結城に導かれ家庭を持ち、一九七〇年代には木村荘・木村千・柏・渡辺・佐藤・前橋各家二十四名が結城教会で礼拝を守った。重病から回復した幼女（金沢教会員・横山きく）は二児を授かり、子は二人とも教団の教職となっている。筆者の叔母であるきくは肉体的ハンディを負い、苦しみにあったこともあろうと察する。だが叔母になされた主の御業により祖父が、家族が主に用いられ、子が主に仕える身とされたことを鑑みるに、一族の信仰の歩みにとって叔母は重要なお取り扱いを受けたのだと誇らしく思うのである。

有馬家から結城に導かれた御室の子孫たちは、六代目クリスチャンを含め今やアッセンブリーの十一教会、他教団の二教会に於いて礼拝を守る。曾祖母ソデの「私の血肉の繋がりのある者は一人残らず信じて下さるよう神様にお祈りして居ります」との遺言の如く、六代目皆がクリスチャンとなる日を待ち望んでいる。

※前編　有馬嘉一（誤）⬇嘉市（正）
（読者からのご指摘をいただきました）

1979 年　結城教会クリスマス　有馬家由来の親族

椅子席（左から）　柏康志　木村直子　木村御室（おむろ）　木村荘十三（そとぞう）　佐藤知子
立ち席　渡辺喜平　前橋広男　前橋勢津子　木村千畝夫　前橋眞　木村信和　柏真一　佐藤法子　柏与志
木村恵司　渡辺まち　渡辺妙子　渡辺岳見　前橋康子　佐藤喜美子　柏勝（筆者）　木村シン

後援会の活動紹介

七名の新会員が誕生

篠原教会　小林健一

主の導きを感謝します。すでに猛暑が始まっていた七月の第三聖日、酒井会長に同行して川崎にある溝の口キリスト教会を訪問し、礼拝の中で神学校後援会を紹介する機会が与えられました。

ＪＲ南武線津田山駅から徒歩でほどなく、かわいらしいウィンディチャペルの玄関先天井に設置された手作りのミストが私たちを出迎えて下さいました。

酒井会長は教会の近くにある学校に奉職されていたことがあるとの由、小生はと言えば、現役時代は近隣にある勤務先の工場をしばしば訪れていました。

幸いな賛美に続き、「こうして、私は、あなたの御名を、とこしえまでもほめ歌い、私の誓いを日ごとに果たしましょう。」（詩篇六十一・八）との、相変わらず元気いっぱいの仁井田牧師のメッセージに一同が燃やされました。そのあとで時間をいただき、後援会活動を説明、会員登録のお勧めをしました。

一か月五百円足らずで「みことばを伝える器を育てる」という誓いを果たすことができるとの主からの呼びかけに応答されて、その場で七名もの兄姉から会員申し込みがあったのです。「主の御名はほむべきかな」と仁井田牧師夫妻、吉原師、愛兄姉に見送られて、感謝のうちに教会をあとにしました。

小林役員と酒井会長

教区聖会でもアピール！

関東南西教区聖会(9/18)で
CBC後援会の活動紹介をする
岩本章子副会長

2023年度　会員数・会費納入状況（1月～9月）

区分	年間計画		実　績		計画対比		
	会員数	会　費（円）	会員数	会　費（円）	会員数	会　費（円）	会費進捗
法人会員	7	300,000	3	140,000	-4	-160,000	47%
教会会員	55	1,200,000	26	483,500	-29	-716,500	40%
個人会員	300	2,700,000	187	1,580,000	-113	-1,120,000	59%
賛助会員	50	100,000	21	51,000	-29	-49,000	51%
合　計	412	4,300,000	237	2,254,500	-175	-2,045,500	52%

これからもお祈りとご支援をよろしくお願いいたします

献身者が経済的な憂いがないように支援の輪に加わりましょう

●後援会役員の結城キリスト教会柏兄の「一族の救い」を興味深く読ませて頂いた。今日、信仰継承の難しさを聞く機会が多いが、初代の有馬俊平から138年に亘り、連綿とキリストを信じ・伝えている家系に感銘を受けた。その中にはCBCで学び伝道者となった方々も多いと知った。私たち自身の信仰継承と共に、神学生を支え続けている後援会の働きの大切さも改めて感じた。あなたも後援会の会員となって、神学生を支える仲間に加わって欲しい。

富山　均

「後援会だより」や郵便局の払込取扱票が必要でしたら、ご遠慮なく左記にお問い合わせください。

▲解体予定の教室棟

おいしいお食事をありがとうございました▶

発　行　中央聖書神学校後援会
所在地　〒170-0003
東京都豊島区駒込3-15-20
Tel　03-3918-4925
Fax　03-3918-4064
E-mail　kouenkai@cbc-j.ac.jp
編　集　後援会委員会
印刷所　ベーテルフォト印刷㈱
発行日　2023年11月1日